

モニタリングを継続的に行っている地点のデータを用いて、以下の方法により地点別の濃度分布の推移を確認した。

各地点における放射性セシウム(Cs-137)の全調査結果を用いて、地点ごとに平均値(算術平均。検出下限値未満は5Bq/kg(検出下限値の1/2)で算出。)を求め、全ての地点平均値を濃度別に6区分に整理した。

■ 検出下限値未満 (10Bq/kg未満) ■ 10~100Bq/kg未満 ■ 100~1,000Bq/kg未満
■ 1,000~10,000Bq/kg未満 ■ 10,000~100,000Bq/kg未満 ■ 100,000~1,000,000Bq/kg未満



・河川

経年的には、高濃度区分が減少。令和6年度は、検出下限値未満が98地点(24.2%)、10以上100Bq/kg未満が233地点(55.8%)、100以上1,000Bq/kg未満が65地点(16.4%)であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約83%を占めていた。

・湖沼

経年的には、高濃度区分が減少しているが、河川に比べ緩やかな減少傾向であった。令和6年度は、検出下限値未満が4地点(2.4%)、10以上100Bq/kg未満が44地点(26.8%)、100以上1,000Bq/kg未満が80地点(48.8%)であり、1,000Bq/kg未満の地点が全体の約78%を占めていた。

・沿岸

経年的には、高濃度区分はみられない。令和6年度は、検出下限値未満が14地点(33.3%)、10以上100Bq/kg未満が22地点(52.4%)、100以上1,000Bq/kg未満が6地点(14.3%)であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約86%を占めていた。

令和7年度第2回水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会(環境省)資料
(https://www.env.go.jp/air/mcm/conf_cm2/r0711.html)より作成

2024年度も前年に引き続き、河川、湖沼・水源地、沿岸域の底質の放射性セシウム濃度の調査が行われました。

上記は、底質の放射性セシウム濃度の調査結果です。

本資料への収録日：2025年3月31日

改訂日：2026年3月31日